

今日は
立冬
ですが

～ ざわめき・匂い・彩り
森に広がる秋 ～

耳を澄まして 気配を感じよう
目を凝らして 姿を見極めよう

ヤマコウバシの橙と冬芽
ウルシ属の赤
ガマズミの紅葉と果実
コナラの黄褐色
ノコンギクの薄紫の花
シャシャンボ果実の黒紫



コバナガマズミ

最近出会った野鳥たち

観測日	標準和名	漢字表記	生活型	餌	特徴	目	科
10/11	ノスリ	鷲	留鳥	ネズミ・鳥・ベ・カエル	優しい眼・翼下面に褐色パッチ・短円尾	幼	幼
10/28	モズ	百舌鳥	漂鳥	昆虫・カエル	高鳴き、はやにえ、頭デカ、鋭い鉤型嘴	スズメ	モズ
11/5	ジョウビタキ	尉鷯	冬鳥	昆虫・キノコ・木の实	市街地・林縁・杭上、紋付き・頭灰白	スズメ	ヒタキ
11/5	ヒヨドリ	鶉	留鳥	木の实・蜜・昆虫	どこにでも、いろんな鳴き声、ボサボサ頭	スズメ	ヒヨドリ

相生山の四季を歩く会 2014.11.9 小雨							今日の記録
No	種	目	科	生活型	確認	早朝	※は早朝
1	キジバト	ハト	ハト	留	○目視		○
2	カワウ	カワウ	ウ	留	○	※	
3	ミサゴ	幼	ミサゴ	留	○	※	
4	コゲラ	キツキ	キツキ	留	△声		○
5	モズ		モズ	漂	○		○
6	カケス		カケス	留	△		
7	ハシボソガラス		カケス	留	○		○
8	ハシブトガラス		カケス	留	△		○
9	ヤマガラ		シジュウカラ	留	△	※	
10	シジュウカラ		シジュウカラ	留	○		○
11	ヒヨドリ		ヒヨドリ	留	○		○
12	ウグイス		ウグイス	留	△		△
13	メジロ	スズメ	メジロ	留	○		○
14	トラツグミ		ヒタキ	留	○	※	
15	シロハラ		ヒタキ	冬	△		
16	ツグミ		ヒタキ	冬	○		
17	ジョウビタキ		ヒタキ	冬	○		
18	スズメ		スズメ	留	○		
19	カワラヒワ		アトリ	留	○	※	
20	イカル		アトリ	漂	△	※	
21	アオジ		ホオジロ	漂	△		

確認：西三河野鳥の会 岡田さん

・オオタカ 11/8計
(早朝)・アオサギ・セグロセキレイ・ハクセキレイ 13種



ノコンギク
(野紺菊)

相生山で110人の名城大生
環境調査をおこないます
11月23日(月・祝)25日(水)

農学部生物環境科学科2年生の
陸貝・ヒメボタル幼虫・植生・土壌などの
調査実習が今年も実施されます。
「相生山の四季を歩く会」も案内人と
して協力参加します。
指導教授の日野先生のご好意で、若干の
希望者に見学が認められましたので、
ご案内します。急ぎ申し出ください。

駒山へ出かけよう

豊田市旭地区/標高855m

ブナの森回復に向け

竹除伐作業

12/5(土)現地8:30

問い合わせ:古川まで

この時期 注目の樹木たち

No	標準和名	漢字表記	科	花
1	コナラ	小櫨	ブナ	黄葉 ドングリ
2	アベマキ	栲	ブナ	黄葉 比較㊦クリ
3	ヤマウルシ	山漆	ウルシ	紅葉 果実:毛あり
4	ヤマハゼ	山檀	ウルシ	紅葉
5	ヌルデ	白膠木	ウルシ	黄葉 果実
6	アオハダ	青肌	イチバク	黄葉 果実
7	ソヨゴ	冬青	イチバク	常緑 果実
8	ヤマコウバシ	山香し	クスノキ	黄葉 果実 冬芽
9	ガマズミ	莢迷	レブクウ	紅葉 果実
10	コバナガマズミ	小葉莢迷	レブクウ	紅葉 果実
11	クサギ	臭木	シラ	黄葉 果実
12	ズミ	酢実	バラ	黄葉 果実
13	ヤマザクラ	山桜	バラ	紅葉 クマリン
14	タカノツメ	鷹の爪	ウコギ	黄葉
15	クチナシ	梔子	アカネ	常緑 果実



ヤマハゼ



クチナシ

次回 12月13日(日) 9:30スタート
～ 黄葉の森と紅葉の谷を歩こう ～
今年も 緑地南の徳林寺まで 足を延ばします

連絡先(古川)

tell/fax: 052-821-6463

ケイタイ: 080-5124-6463

e-mail: viva_forest@yahoo.co.jp

ホームページ: ラブリーアース → 検索

全国に発信しています
クリックと拍手で
応援をお願いします

相生山からのメッセージ

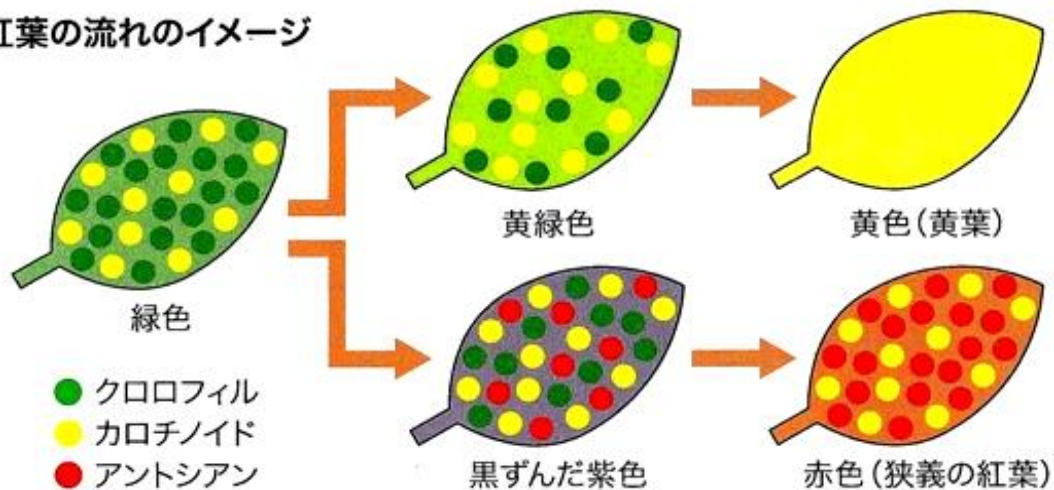
紅葉のしくみ

紅葉とは、落葉に先立って葉が色づくことである。

より狭い意味では、赤や 橙 に色づくことを紅葉と呼び、黄色くなることは黄葉（黄葉）と呼ぶ。

また、褐色になる（のが早い）ことを褐葉と呼ぶこともある。

紅葉の流れのイメージ



樹木の葉は、クロロフィル(葉緑素)という緑色の色素と、カロチノイドという黄色い色素をもっているが、クロロフィルの量がずっと多いので、ふだんは緑色に見える。秋が深まると、クロロフィルが先に分解されてカロチノイドが残るため、葉が黄色く見える。これが黄葉である。

落葉樹の大半は、多少なりとも黄葉すると思つてよい。

一方、秋になると葉を落とす準備のため、葉柄と枝の境に離層と呼ばれる層ができる。

すると、光合成でつくられた糖分などの移動が妨げられて葉に蓄積し、アントシアンという赤色の色素に変化することがある。これが狭義の紅葉である。

アントシアンの生成には日光が関係しており、日当たりがよい葉ほど赤くなり、日陰の葉は黄色くなる現象が見られる。また、多くの場合はクロロフィルが分解されきる前にアントシアンができて始めるので、その過程で紫色っぽく見えることが多い。

褐葉と呼ばれるのは、アントシアンの代わりにタンニン系の物質ができて褐色になる現象で、はじめに黄色くなって(黄葉)から褐色を帯びることが多く、その過程で橙色っぽく見えることもある。

どの樹種が何色に紅葉するかは おおよそ決まっているが、生育条件や その年の天候、樹齢による変化も多く、カツラやコナラのように、成木の紅葉は黄色だが 幼木では赤くなる樹種も少なくない。

実際には、緑、黄、赤、褐色の色素がさまざまな割合で葉に含まれ、時間の経過とともに変化するので、多種多様な色が 見られるのである。